

## 「福音の初め」

2014年06月27日

### マルコによる福音書1章1節～8節。

3節「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」

「福音」はギリシャ語でエヴァンゲリオンと言い、その意味は「喜びのおとずれ」です。ローマ帝国時代、新皇帝の即位や戦勝を国民に知らせるニュースを「福音」と言いました。初代教会は、この言葉を取り入れ、主イエスにおいて表された出来事を「福音」と言って、新しい「喜びのおとずれ」のメッセージにしたのです。教会はいつも、時代の言葉、生活、文化との関わりの中にあるということです。

四つの福音書は共に、「福音の初め」は洗礼者ヨハネから始まっていると記しています。ヨハネは、エルサレム神殿の祭司ザカリアと妻エリサベトに与えられた一人息子です。信仰の篤い夫婦は息子を祭司になるように育てたでしょう。ところが、成人したヨハネは神殿を捨てています。エルサレム神殿は荘厳で、見る者を圧倒しましたが、ヨハネは墮落した神殿からは宗教に関する真実は起こらないと思ったのです。ヨハネは荒れ野に立ちました。荒れ野はモーセに率いられたイスラエルの民が神への信託を学んだ信仰の原点です。服装は「らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め」ていました。旧約聖書の預言者エリヤのいでたちです。食べ物は「いなごと野蜜を食べ」る極めて禁欲的なものでした。

ヨハネは信仰の原点である荒れ野に立ち、イスラエル人が最も尊敬する預言者エリヤの風貌で、厳しい禁欲生活の中から、罪の赦しを得させる悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。人々は、ヨハネの身を捨てた、真実で激しい説教に心を動かされ、続々と悔い改めの洗礼を受けました。

洗礼は異教徒がユダヤ教に改宗する場合に授けました。信仰の父アブラハムの子孫であるイスラエル人にとって、神信仰は当然であるから、洗礼の必要はないとされていました。ヨハネは、信仰にはそのような既得権はない、今、ここで罪を悔い、初々しく神を信じて洗礼を受けよと迫ったのです。革新的な大きな宗教運動が広がり、生ける神に心を開く道が整えられました。この道こそが、主イエスの福音宣教の道備えでした。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」が起こったのです。そしてヨハネは、私の後に優れた方が来られ、私はその方の履物のひもを解く値打ちもない、「わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる」とキリストの到来を預言しました。

パウロはガラテヤ書4章4節で「しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました」と書いています。時が満ちて、御子が生まれ、主イエスの神の国の宣教が始まりました。マルコ福音書は冒頭で、洗礼者ヨハネの説教から、時が満ちて「福音の初め」である主イエスの歩まれる道筋がまっすぐになった喜びと感動を記しています。この時に応じて、悔い改めた人々のように、私たちも神に心を開きたいと思います。パウロはコリント 二 6章4節で「今や、恵みの時、今こそ救の日」と書いています。神は主イエスにおいて、今が恵みの時、救いの日として与えてくださっています。私たちに与えられた時は、どんなに敗れていようとも祝福の時なのです。